活き生きネットワーク介護事業部
ケアマネジャー
大橋 大貴

性別の壁を超え 自分らしく働く福祉の道

入社とキャリアの選択

一年前にこちらの団体に入職されたきっかけは何ですか?また、福祉分野でキャリアを築こうと考えた理由を教えてください。

実は、一年前に入職を決めた時はちょうど二人目の子どもが生まれる直前のタイミングでした。共働きの妻も介護職で、上の子が小学校一年生。妻の仕事は送迎もあって帰宅時間が読みにくいこともあり、これからは私が二人の子どもの迎えを担当しようと考えたんです。そこで、ハローワークで『家から迎えに行ける距離』『残業が少ないこと』を条件に探していたところ、この『活き生きネットワーク』に出会いました。

もともとは他分野の仕事をしていましたが、ご縁があって福祉の世界に飛び込みました。実際に働いてみると、福祉は専門的な知識が問われる場面が多く、資格を取得することで着実にステップアップしていける。そんなプロフェッショナルとしての魅力に惹かれ、今のキャリアを歩んでいます。

職員の約八割が女性という環境ですが、入社前に女性が多い職場であることに対して不安や躊躇はありませんでしたか?

女性が多いことへの不安や躊躇は、特になかったですね。『郷に入っては郷に従え』ではないですが、新しい職場に入るときは、男女比に関わらずその場所特有の慣習があるものです。私としては、性別の割合よりも『どんな新しい文化があるのかな』ということの方が気になっていました。

職場環境と「男性としての居心地」

実際に入社してみて、男性としての「居心地」はいかがですか?マイノリティとして「やりづらさ」を感じる場面はありますか、それともありませんか?

男性だからといって、やりづらさを感じたことは一度もありません。周囲の先輩方が、こちらから何でも話しかけやすい雰囲気を作ってくださるんです。そのおかげで報告・連絡・相談がスムーズにでき、毎日安心して仕事に取り組めています。

職場内でのコミュニケーションにおいて、女性スタッフとの連携や相談のしやすさは?

先輩たちが『自分の言いたいことを正直に言える環境』を整えてくださっているのが、本当にありがたいです。オープンな空気感のおかげで、入社してすぐの段階からとても仕事がしやすいと感じていました。

ケアマネジャーとして、男性視点の活用

ケアマネジャーとして利用者様やご家族と関わる中で、「男性職員でよかった」と感じる場面、あるいは逆に難しさを感じる場面はありますか?

利用者様もケアマネジャーも女性が多い世界ですので、中には異性に相談しにくい内容をお持ちの方や、男性に対して苦手意識がある方もいらっしゃいます。そうした場面では、信頼関係を築くことの難しさを痛感することもありますね。

介護をするご家族（特に息子さんや旦那様など男性介護者）に対して、同じ男性としての視点が支援に役立っていると感じることはありますか?

それは強く感じます。男性の介護者様は、どうしても家事などを女性に頼ってこられた方が多い傾向にあります。一方で、私の職場には女性が多いので、日々接する中で『男性が気づきにくい細やかな気配り』を教わることがたくさんあります。職場で得たその視点を活かして、男性介護者の方に寄り添った言葉がけができた時は、この環境で働いていて良かったと思います。

ケアマネジャーは急な対応と計画的な業務の両方が求められますが、育児と両立する上で、どのような工夫をされていますか?

基本的なことですが、毎朝必ずその日の優先順位を整理することから始めています。今日中にやり切るべきタスクを洗い出し、視覚的にすぐ目に入るようにメモに残すなど、時間を有効に使う工夫をしています。

育児と仕事の両立（柔軟な働き方）

お子さんが生まれたばかりとのことですが、急な発熱や保育園の行事などで休む際、職場の理解やサポート体制についてどう感じていますか?

本当に温かい言葉をかけていただいています。家庭の事情で急なお休みをお願いすることになっても、育児経験のある先輩方が『状況がわかるから大丈夫だよ』と理解して送り出してくれる。このサポート体制には、いつも救われています。

この職場には、助け合いの柔軟な文化がありますが、それが女性だけでなく、育児をする男性にとっても有効に機能していると感じますか?

はい、実感しています。育児のすべてを私が担っているわけではありませんが、子どもの急病などは避けられません。そんな時も親身に相談に乗ってもらえる環境があるのは、働く父親として非常に心強く感じます。

ご自身が親となり育児に関わるようになったことで、ケアマネジャーとしての視点や、ご家族への言葉がけに変化はありましたか?

育児の中には、介護に通じるものが多くあると気づきました。自分自身が家族を持ち、育児を経験することで、改めて『想いを持った介護』の大切さを肌で感じるようになりました。それが今の仕事の大きな糧になっています。

次の一歩を考える方へのメッセージ

世間では男性が育児をすると「お父さんなのに偉い」と特別視されることもありますが、この職場内ではそういった「性別による役割意識」を感じることはありますか?それとも「当たり前のこと」として受け入れられていますか?

性別による役割意識は、世間一般と同じく少なからずあると思います。ただ、今の職場はそれが『特別』すぎず『当たり前』として受け入れられる、非常に良いバランスだと感じます。この程よい環境のおかげで、私自身も着実に成長できています。

最後に、これから福祉分野で働こうと考えている男性や、仕事と家庭の両立を目指す男性に向けてメッセージをお願いします。

『男性／女性なのに』という言葉はどこにでもあるかもしれません。大切なのは、自分の環境を理解してもらうと同時に、自分も仲間の価値観に寄り添うこと。日頃のコミュニケーションで信頼を築けば、仕事と家庭の両立は必ず実現できます。『誰かのために』という漠然とした気持ちでも、ぜひ挑戦してください。ここは、その思いに応えてくれるやりがいのある分野です。